

# 水素社会に向けた「グローバル・アクション・アジェンダ」 プログレスレポート2020 概要

- 昨年の水素閣僚会議で発表した**水素社会に向けた各国の行動指針「グローバルアクションアジェンダ」**に基づき、各国の水素製造・利活用に向けた1年間の具体的な取組をまとめたレポート。
- **水素戦略の策定、モビリティ分野での燃料電池利用、サプライチェーン構築等、6つの柱**からなっており、参加各国・国際機関等の代表的な取組を整理。

## 1. 水素戦略等の策定

- 日本に加え、豪州、ドイツ、フランス、EU、ポルトガル等12の国・地域が水素戦略、ロードマップを発表。英国、チリ、ポーランド、南アの4か国が検討中。

## 2. モビリティ分野での燃料電池利用

- **FCVは25000台を突破**、2019年の販売数は前年の2倍以上。**FCフォークリフトは35000台を突破**。
- ドイツに続き、スペイン、イタリア、英国、フランスが**燃料電池列車導入を発表**。中国でFCトラム導入。
- 日本は**大型モビリティ向けの充填技術開発に着手**。

## 3. 国際サプライチェーン構築

- 日本が**液化水素運搬船**を建造。
- **ポルトガル、オランダ**が水素の輸出入に関する意思確認文書を締結。
- **独・豪州**が水素輸出入に向けたFS実施に合意。

## 4. セクターインテグレーション

- **福島で世界最大の水電解装置**が稼働。
- EUが2×40GWイニシアティブを発表、**多くの電解水素プロジェクト**を計画。
- スウェーデンで**水素を利用した製鉄のパイロットプラント**が稼働。

## 5. 国際機関等による調査分析

- IEAが長期的なエネルギー見通しの中で、**水素の導入見通し**を発表。

## 6. コミュニケーション・教育・啓蒙

- クリーンエネルギー閣僚会合、水素経済に向けた国際パートナーシップ等の**国際イニシアティブ**が活発に活動。